

20 ケガキ

潮間帯上部の岩礁に生息する。表面にはパイプ状の棘が生えているが、棘が脱落している個体もある。



19 アオガイ

潮間帯上部～中部の岩礁に生息し、石の下面などに見られる。模様は変化があるが、一般にかすり模様となる。



18 ムラサキインコガイ

潮間帯中部～潮下帯の岩礁に生息する。尖った部分に放射状の溝がある。



17 イロロ

潮間帯中部の岩礁に着生する。干出すると黒みをおびるが、潮が満ちて海水に浸ると元の形にもどり、色も褐色になる。



16 イワヒゲ

潮間帯中部の岩礁に着生する。干潮時には乾いて枯れているように見えるが、海水に浸ると元に戻る。



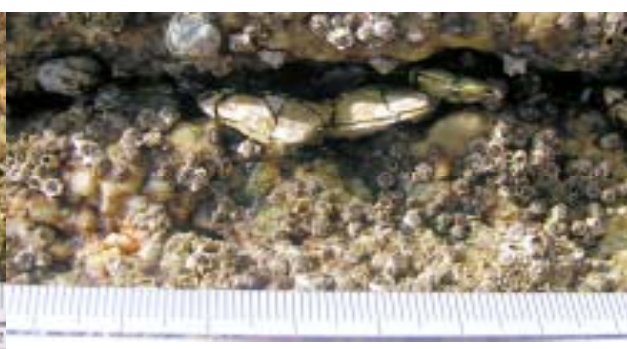
15 クロフジツボ

潮間帯中部の岩礁に生息する。波あたりの強い場所を好む。



14 カメノテ

潮間帯上部の岩礁の割れ目や隙間に生息。体全体が石灰質の殻で覆われており、貝のようにみえるが、エビやカニに近い仲間である。



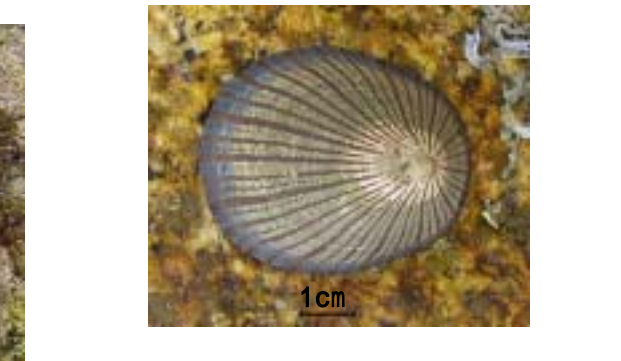
13 イシゲ

潮間帯上部の岩礁に着生する。干出ししても直立しており、黒く干からびたように見えるが、再び海水に浸ると褐色に戻る。



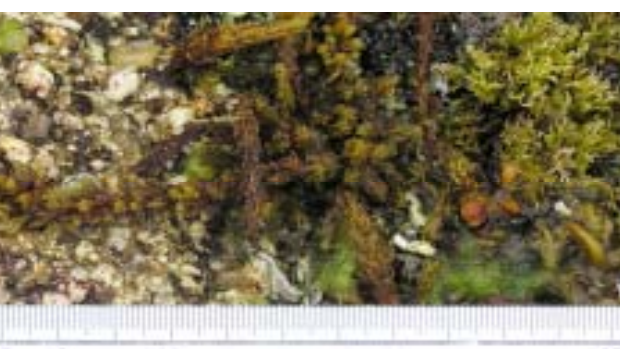
12 マツバガイ

潮間帯上部～中部の岩礁に生息する。青灰色の地に赤褐色の放射模様がある。



11 ウミトラノオ

潮間帯下部の岩礁に着生する。生体は緑がかかった濃い茶色～濃褐色。波が穏やかな場所では、1mを超えることもある。



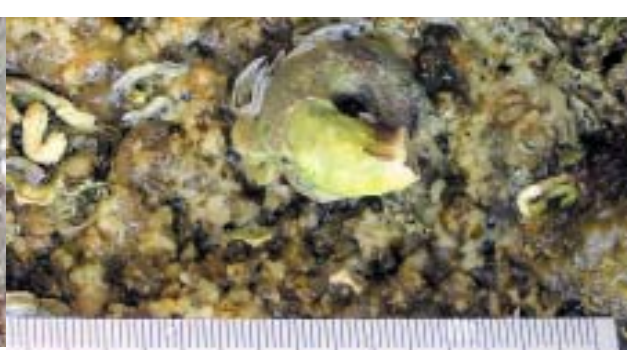
10 ヒジキ

潮間帯下部の岩礁に着生する。葉は少しふくれて紡錘形になる。



9 オオヘビガイ

潮間帯中部～潮下帯の岩礁に生息する。巻き方は不規則で、口は少し持ち上がっている。



8 イボニシ

潮間帯上部～中部の岩礁に生息する。殻色は灰色や淡褐色で、結節を中心に黒色の斑紋が見えるものが多い。殻口内は黒紫色。



7 ヒザラガイ

潮間帯上部～中部の岩礁の窪みに生息する。背側に8枚の殻板をもち、周囲の肉帯上には円筒状の小棘が密生する。



6 アナアオサ

潮間帯上部～潮下帯の岩礁に着生や浮遊生活をする。体は膜状でやや堅い。成長にしたがって、体に大小の穴があく。



5 マガキ

潮間帯中部～下部の岩礁や礫に生息する。殻の形は変化に富むが、表面は白色。殻の中には歯がない。



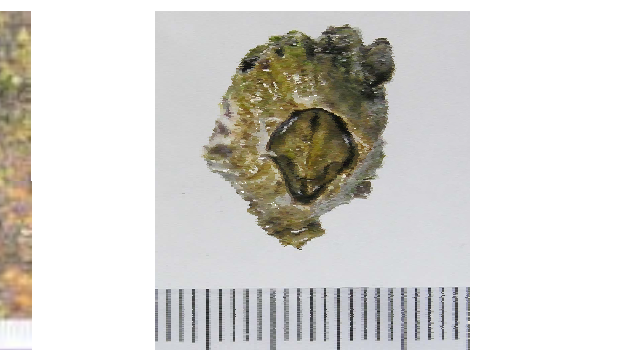
4 ムラサキイガイ

潮間帯中部～潮下帯の岩礁に生息する。黒紫色で三角形をしている。



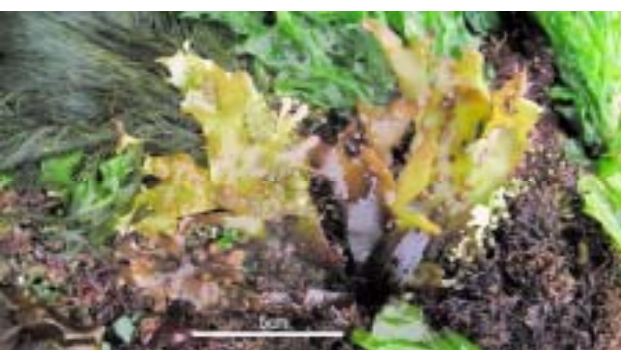
3 シロスジフジツボ

潮間帯上部～中部の岩礁に生息する。円錐形で殻口は大きく、五角形をしている。青紫色の地に白色の肋を持つ。



2 ツノマタ

潮間帯下部～潮下帯の岩礁に着生する。手ざわりはやや厚みがあり弾力がある。生体は紫がかかった紅色や緑に近いものがある。



1 タテジマフジツボ

潮間帯中部の岩礁に生息する。殻口は広く、ひし形をしている。全体的に白っぽく、数本の縦縞がある。



○ コアマモ

潮間帯中部～潮下帯の砂泥地に見られる。葉は幅 1～1.5mm で、2～3本の葉脈を持つ。



○ アマモ

潮間帯下部～潮下帯の砂泥地に見られる。葉は幅 5～8mm で 5～7本の葉脈を持つ。



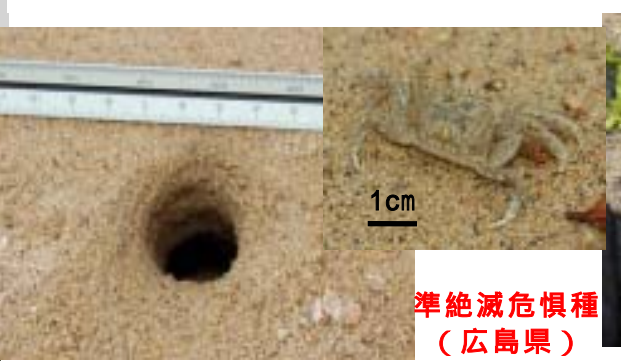
○ タマシキゴカイ

潮間帯中部～潮下帯の砂泥干潟に見られる。u字型の巣をつくり、巣穴の入り口にとぐる状の糞塊を積む。



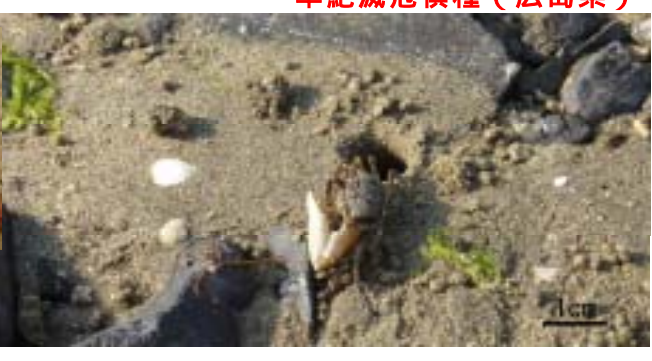
○ スナガニ

潮上帯（満潮線付近）の砂浜に数十 cm～百 cm 程度の深さの巣穴で生活しており、巣穴は砂をかきだしたようになっている。



○ ハクセンシオマネキ

潮上帯～潮間帯上部の泥混りのやや堅い砂浜か転石地帯に見られる。



準絶滅危惧種（広島県）

準絶滅危惧種（広島県）

調査内容及び方法

調査場所 竹原市賀茂川河口沖（図.1 参照）

調査1 潮間帯生物調査：ベルトトランセクト法による目視観察とする。（図.2, 表.1, 表.2 参照）

調査2 ゴミ・漂着物調査：潮間帯生物調査と同様の方法でこない、ゴミの位置と種類を調べる。（表.3 参照）

調査3 基質調査：潮間帯生物調査と同様の方法でこない、確認された基質の状態を調べる。（表.4 参照）

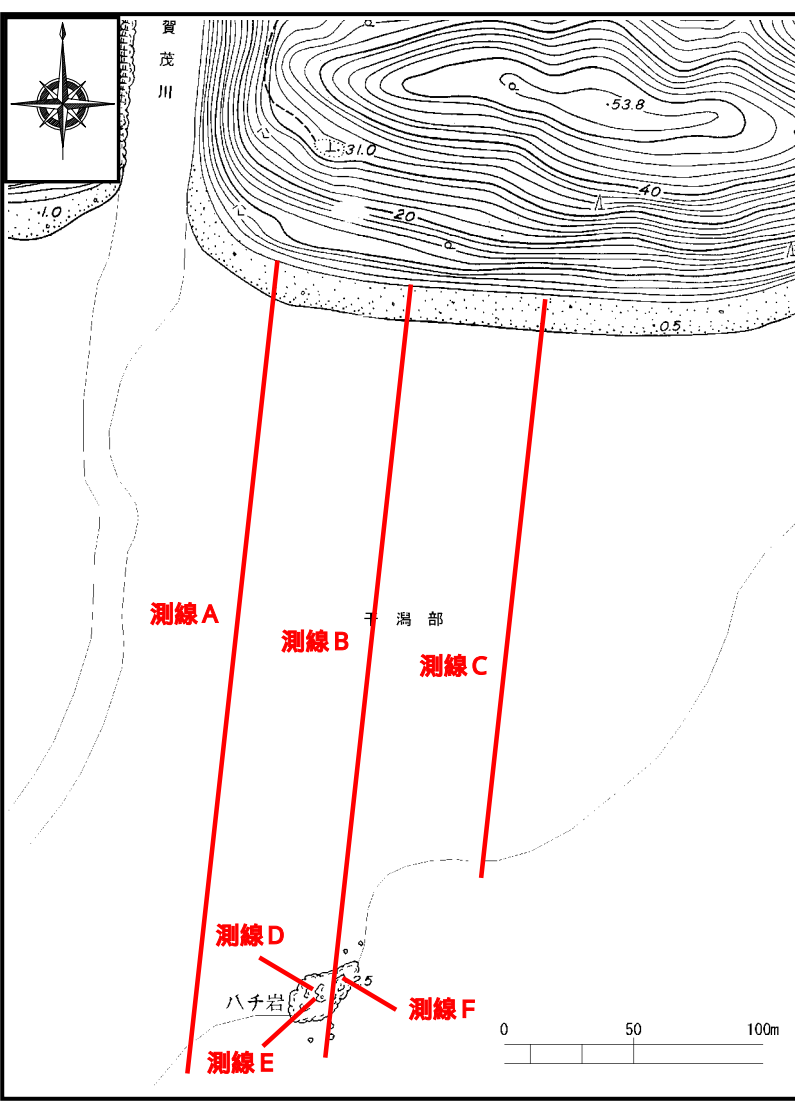


図.1 調査測線位置図

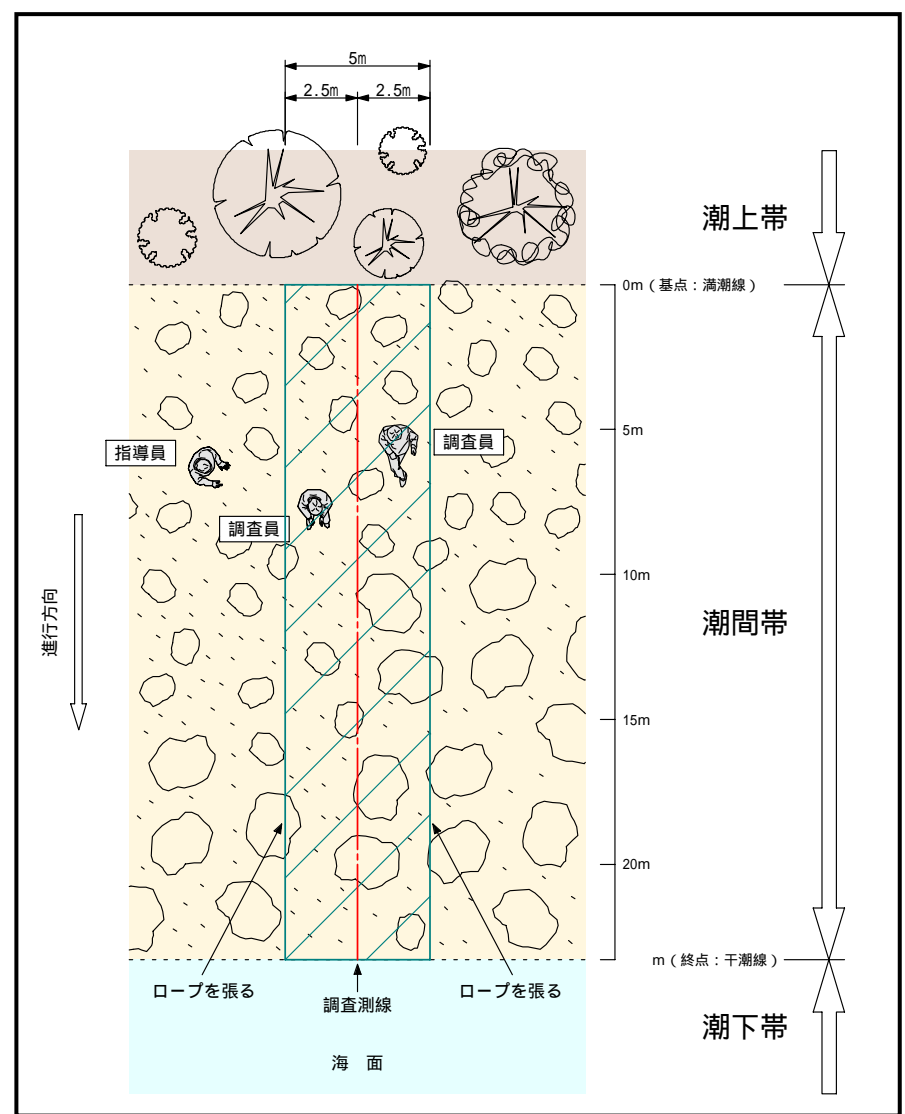


図.2 調査方法模式図（平面図）

表.1 動物個体数の階級・区分

階級	区分	区分の基準
c c	非常に多い	100 個体/m ² 以上
c	多い	10～100 個体/m ²
+	普通	5～10 個体/m ²
r	少ない	1～5 個体/m ²
r r	非常に少ない	1 個体/m ²

動物：1 m² 当り 50 個体までは、その個体数を記入。50 個体以上は概ねの個体数を記入。

表.2 植生被度の階級・区分

被度階級	被度 (%)	区分	区分の基準
5	75 <	濃生	地表面がほとんどみえない
4	50～75	密生	地表面よりも植生のほうが多い
3	25～50	疎生	植生よりも地表面のほうが多い
2	5～25	点生	植生はまばらである
1	< 5	極く点生	植生はごくまばらである
0	0	なし	植生はない

植物：確認した個体の被度階級を記入。

表.3 ゴミ・漂着物の例

分類	例
生活系	発泡スチロール、ペットボトル、空き缶・ビン、ビニール袋など
産業系	ホタテ貝殻（カキ養殖）、カキ筏の部品、漁網など
自然系	貝殻（スガイ、イボニシ、イシダタミガイ）、海藻、木片など

表.4 基質の分類

種類	大きさ	状態
泥	粒径が 0.075mm より小さい	砂混じり泥など
砂	粒径が 0.075mm～2.0mm	泥混じり砂など
礫	粒径が 2.0mm～80mm	泥 100%、全体的に礫が点在など
岩	粒径が 80mm より大きい	泥 30%、砂 30%、礫 30%、岩 20% など